

第88回 記者懇談会実施概要

1 日時 2013年3月13日(水) 15:00~17:00

2 場所 関西大学100周年記念会館 第2会議室

3 内容

(1) 研究発表・質疑応答(15:00~16:00)

・藤田真一 文学部教授

発表テーマ「淀川 文化をつむぐ大動脈」

・稲田 貢 システム理工学部准教授

発表テーマ「ナノ構造間相互作用精密制御装置(PICSN)の開発
~高機能性物質(人工固体)を創成する~」

(2) 学内状況説明・情報交換(16:00~17:00)

2013年度入学試験志願者・合格者状況について

資料1

平成24年度卒業式、大学院学位記授与式、留学生別科秋学期修了式

および平成25年度入学式の挙行について

資料2

平成25年度客員教授の委嘱について

資料3

平成25年度名誉教授称号授与について

資料4

文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム

S評価・優秀校について

資料5

コラボレーション commons の開設について

資料6

大正癸丑^{きちゅう}蘭亭会^{おおさか}百周年記念企画について

資料7

ウェークアップぷらす Live in 関西大学の開催について

資料8

文化人連続講演会の開催について

資料9

社会安全学部連続セミナーの開催について

資料10

堺市博物館特別企画展の開催について

資料11

平成25年度第39期(39年目)飛鳥史学文学講座の開催について

資料12

関大生の活躍について

資料13

4 大学側出席者

楠見晴重学長、黒田勇副学長、木谷晋市副学長、西村枝美学長補佐、
藤田真一文学部教授、稲田貢システム理工学部准教授、陶徳民文学部教授、
中谷伸生文学部教授、永井良和社会学部教授、藤本清高総合企画室長兼広報室長、
中川雄弘広報課長、福田聡入試広報グループ長、藪田和広学長課長 他

5 参考資料

(1) 関西大学ニューズレター「Reed」第32号

(2) 関西大学ビジネスプラン・コンペティション KUBIC2013 チラシ・応募要領

(3) 関西大学・津田塾大学主催シンポジウム チラシ

(4) フレッシュキャンパス2013 プログラム・タイムスケジュール

(5) 行事予定表(3月~4月)

以上

淀川 文化をつむぐ大動脈

文学部教授 藤田真一

【概要】

京・大阪、この関西の二都は、役割と色合いを異にしながら発展してきた。一言でいうと、京都は歴史と伝統をほこる文化の町、かたや大阪は天下の台所として社会をささえる経済の町、ということになる。この区分けじたいにまちがいはないが、こうしたレッテルだけで納得するわけにはいかない。

芭蕉・西鶴・近松それに契沖といった元禄を代表する文学者は、みな大阪に深い縁をもった。また、与謝蕪村・上田秋成・木村蒹葭堂といった江戸中期に活躍した文人たちは、すべて大阪出身だった。大阪は、文化を生む町でもあったのだ。

大阪が京にも遜色ない文化を生み出し得た一因に、淀川という水運の力があつた。

古来、平城京や平安京など、日本の首都は淀川水系を頼りにして造立されてきた。木津川・宇治川・桂川、それに鴨川、そしてこれらを合わせた淀川である。ここに琵琶湖を加えてもよい。この水系を最大限に活用しようとしたのが、豊臣秀吉である。秀吉こそが、現代につながる京・大阪のありかたをみすえて建都した人物である。

かつて、水運こそが交通インフラの基盤だった。淀川は人を運び、物資を運搬して、二都の社会・経済の基盤となった。そして人とモノの流通とともに、淀川は文化の伝播にも測り知れない貢献をした。

そんな淀川を描いた名品を2点、まず紹介する。1点は、大阪の絵師大岡春卜の「浪花・瀬河名勝図巻」(関大図書館蔵)。春卜は一般の認知度は低いですが、これを見れば認識を新たにしてもらえるにちがいない。もう1点は、近年人気の画家伊藤若冲の手になる拓本「乗興舟」(京都国立博物館蔵)である。

そして極めつきは、蕪村の名作「春風馬堤曲」。日本文学史上類を見ない形式であると同時に、郷愁や人恋しさをもよおす作品となっている。この名品を生みだす母胎となったのが、まさしく淀川にほかならない。本作を収める稀書『夜半楽』(関大図書館蔵)の原本を目にしながら、淀川がつむいだ詩情を味わっていただきたい。

【プロフィール】

1949年、京都市生まれ。関西大学文学部教授。専門は、国文学(近世文学・俳諧)。とくに、芭蕉・蕪村など江戸期の俳文学、および正岡子規・夏目漱石など近代俳句に関する研究。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。追手門学院大学、京都府立大学を経て、2001年より現職。文学博士(大阪大学)。編著書は、『蕪村全集』第8巻(講談社)、『蕪村書簡集』(岩波文庫)、『蕪村全句集』(おうふう)、『蕪村』(岩波新書)、『蕪村余響』(岩波書店)、別冊太陽『蕪村』(平凡社)など。趣味は、クラシック音楽。

ナノ構造間相互作用精密制御装置 (PICSN) の開発 ～ 高機能性物質 (人工固体) を創成する～

システム理工学部准教授 稲田 貢

【概要】

全ての物質は原子が集まってできた「原子集合体」です。このとき、一般に原子と「原子集合体」の性質は大きく異なります。また同じ原子(元素)であっても集合の仕方によって全く異なる性質を示すことがあります。例えば炭素原子は原子単体では磁性を有しますが、その集合体は磁性を持ちませんし、ダイヤモンドとグラファイト(鉛筆の芯)は共に炭素原子の集合体ですが、その性質は明らかに異なります。ダイヤモンドとグラファイトでは炭素原子の結合方法(配置)が異なるからです。つまり、物質の性質は原子の性質とは異なり、また原子の配置によっても異なるのです。

上記を「ナノ粒子」と「ナノ粒子集合体」に適用させてみましょう。「ナノ粒子」とは金属や半導体を直径数 nm 程度にまで小さくした物質です。物質をナノ粒子にすると、通常の物質とは全く異なる性質を示すことがあります。例えば、Si(シリコン)は発光しない半導体材料であるため LED や半導体レーザーなどの光学素子には使用されませんが、Si ナノ粒子は発光を示すため発光材料への応用を目指した研究が行われています。またステンドグラスの赤色は Au(金)ナノ粒子が示す色です。この Au ナノ粒子を更に小さな粒子(クラスター)にすると、ついには金属ではなくなり発光するようになります。このような特性を示すことから、ナノ粒子は魅力的な材料としてナノテク研究の代表的な研究対象となっています。さて、「ナノ粒子」が集まった物質が「ナノ粒子集合体」、いわゆる人工固体 (artificial solid) です。前述の「原子集合体」のアナロジーから、同じナノ粒子であっても配置や配列によってその集合体の性質は大きく異なることが期待されます。実際に理論的な研究からは半導体ナノ粒子集合体の超伝導特性や非磁性ナノ粒子集合体の磁化などが報告されています。ナノ構造間距離(相互作用)を精密に制御することで高い機能性を持つ人工固体の実現とその発現機構の解明が可能となるのです。しかし実験的にはそのような制御法は確立されていません。そこで私が開発したのが「ナノ構造間相互作用精密制御装置 (Precise Interaction Control System for Nanostructures: PICSN)」と呼ぶ装置です。伸縮性に富む基板上に配置したナノ構造間の距離を、基板を伸縮させることで制御する極めてシンプルな動作原理の装置です。本装置の有用性を示す例として、私達のグループは前述の Au クラスター試料の発光特性について、クラスター間距離の変化に伴う発光スペクトル(色)の制御に成功しました。当日は PICSN の詳細とともに実験結果について報告します。

【プロフィール】

1970年京都府生まれ。関西大学システム理工学部准教授。専門は半導体光電子物性、ナノ物性。京都教育大学教育学部卒業、北陸先端科学技術大学院大学材料科学研究科博士後期課程修了(博士 材料科学)。趣味は旅行、ドライブ、オーディオ。